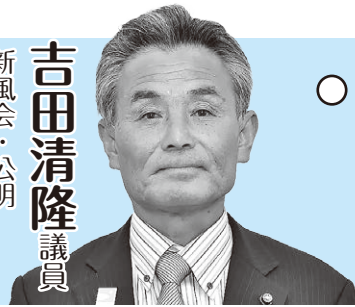


○ ヤングケアラーについて

その他の質問

- ・主要地方道篠尾勝山線整備方針について
- ・県立大学新学部誘致状況について

新風会・公明
吉田清隆
議員



問 ヤングケアラーとは、「若い」と「世話する人」の英語を組み合わせた言葉で、大人が担う家事や病気や障害がある家族の介護を日常的に行っている18歳未満の子供を指し、幼い弟妹の世話や日本語が話せない家族の通訳を務めている子供も含まれる。自由な時間が取れず、家業や進路に影響を及ぼすだけでなく、健全な発育や人間関係の構築を阻むとされている。

答 市内小中学校において、保護者との懇談や日頃の児童生徒の様子から、ヤングケアラーに該当する児童生徒は把握できていないが、幼い兄弟の世話や家事を行っている児童生徒が数名いるという報告を受けている。

「世話している家族がいる」とした中学生が57%（約17人に1人）、高校生が4.1%（約24人に1人）で、クラスに1〜2人いる計算となる。生徒からは「夜遅くまで世話して授業に集中できない」「少し余裕が欲しい」「先生に事情を説明しても表面的なことを言われ、欠席や遅刻が家庭の事情でも内申点で跳ね返ってくる」との意見がある。

勝山市は「子育て日本一」をうたっている。全国に先駆けてヤングケアラーの支援を充実し、子供の苦

悩の気持ちを少しでも軽減できないか。勝山市のヤングケアラーの把握状況と支援に対する取り組みについて伺う。

市内小中学校において、保護者との懇談や日頃の児童生徒の様子から、ヤングケアラーに該当する児童生徒は把握できていないが、幼い兄弟の世話や家事を行っている児童生徒が数名いるという報告を受けている。

支援に対する取り組みとしては、早期発見・把握のために、学期ごとに教育相談週間を設け、担任やスクールカウンセラーと個別面談を行っている。

今後も教職員や児童生徒、保護者に向けてヤングケアラーの周知理解を促進し、他機関との連携を図り、たくさん目の子供たちを見守る体制づくりに努めていく。

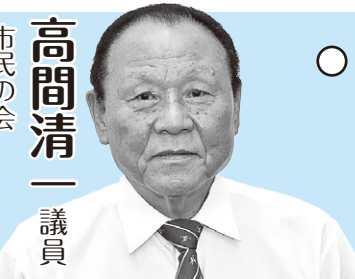
また、福祉サイドからも家庭児童相談員や生活困窮の窓口などを通じて、身体的、精神的に困っている子供の把握に努めていく。

○ 軽油備蓄量の増量について

その他の質問

- ・新型コロナウイルスについて

市民の会
高間清一
議員



問 今年は数年に一度の大雪に見舞われ、主要幹線道路が止まってしまい、生活必需品の不足や除雪用燃料でもある軽油の入荷ができず、油不足になる事態が起きた。このことについて、3月定例会でまず主要幹線道路の確保が大切だと、他市町との連携が必要だという話をしたが、県土木も積極的に動かれ、前向きな返答をいただいている。

答 議員から提案を受け、災害時応援協定を締結している嶺北石油組合との間で油種の入替えによる軽油備蓄量の増量についての協議を行い、すでに前向きな回答を得ている。これにより、新たに6万リットルの軽油備蓄量の増量が見込まれ、市内給油所の軽油タンク容量の合計は16万3000リットルとなり、約2日分の備蓄量を新たに確保できる見込みとなる。

また、勝山市も嶺北石油組合と災害応援協定を結んでいることから、市内の石油業者に軽油の備蓄量を増やしてほしいとお願いしたところ、協力的にお話に乗っていただき、タンクの油種の変更で6万リットルの量を増やすことが可能であるとのこと。

以上の経緯から、市も積極的に動いてほしいとお願いをしたが、現在の進捗状況や今後の見通しなどを伺う。

油種の入替えに伴い、灯油の備蓄量は減少することになる。市民には、降雪期前の「雪に備える」情報として、広報などで灯油の備蓄について周知していく。